



## 指差し呼称でご安全に、ヨシ!



指差し呼称とは、指差しと声出しで危険箇所に対する意識を高め、ケガを未然に防ぐ危険予知活動です。1994年に行われた『操作ボタンの押し間違いに関する実験結果』によると、指差し呼称を行った場合は行わなかった場合と比べて、操作ボタンの押し間違いが約6分の1に減るといった結果が得られたと言われています。指差し呼称の必要性と手順について、改めて振り返ってみましょう。

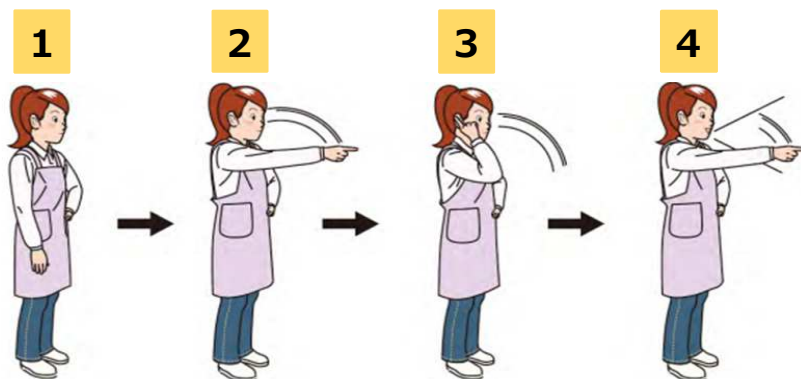
## ● 人の心の特性と指差し呼称の必要性

人の心は完全ではなく、様々な間違いをすることが当たり前であるとされています。危険から身を守るためには、誰もが持っている心の特性（不注意、錯覚、省略行動・近道反応）を理解し、危険に巻き込まれないようにする必要があります。人の心の特性をもとに、指差し呼称の必要性を確認しましょう。

1	不注意	▶ 不注意は誰でも起こりえるものと、理解することが大切です。作業のポイント毎に指差し呼称を行い、「うっかり」・「ぼんやり」・「不注意」を防ぐことが大切です。
2	錯覚	▶ 話を聞き間違えたり実物を見間違えるなどの錯覚は、誰でも起こすことがあります。錯覚を抑えるためには、指差し呼称で周囲を確認するように意識しましょう。
3	省略行動 近道反応	▶ 誰もが「大丈夫だろう」という思い込みから、必要な手順を省略したり禁止されている近道を選んだりすることがあります。指差し呼称は、これらの心に歯止めをかける効果があります。

## ● 指差し呼称の手順

1. 対象をしっかりと見る。
2. 「○○」と唱えながら右腕を伸ばし、**対象をしっかりと見て**人差し指で指差す。
3. 右手を耳元まで振り上げながら、周囲の状況含めて**本当に良いか考えて確認する**。
4. 確認できたら「ヨシ！」と声を出しながら確認対象に向かって手を振り下ろす。



## ● 指差し呼称の工夫事例

職場の中には、指差し呼称を定着させるために『フィンガー・チェック』という名称で実践している職場があります。例えば、「足元OK」や「手洗い、消毒Good!」など、掛け声や動作を自由にさせることで定着を後押ししています。現場の状況に応じてチョットした工夫を重ねることが、ケガを未然に防ぐために大切なことです。

**指を差す・声を出す目的を意識し、ひとつひとつの動作を着実に行うことが大切です**



★ 今月の安全衛生川柳～安全は日々の積み重ねが大切です。

安全は 日々積み重ね 大切に

滋賀支店 スタッフさんの作品